



お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです

登米市

やすらぎの里 サンクリニック

透析患者様の加入活動を行いました



やすらぎの里 サンクリニック様は、宮城県の北東部に位置し、北部は岩手県、西部は栗原市および大崎市、南部は石巻市および涌谷町、東部は気仙沼市および南三陸町に接し、登米市で唯一の透析診療所です。1日約80名の透析患者様が来院されており、スタッフの方は、すべての腎臓疾患の患者さんのために、情熱と愛情をモットーに活動をされています。



事務局では、これまで県内の病院を中心に加入活動を展開してまいりましたが、この度、登米地域を連携強化の一環として7月21日～7月31日の期間で、月水金・火木土（午前・午後）の加入活動を実施いたしました。これまでMMWINのご案内を受けていない患者さんも多く、今回は85名の患者さんに加入をしていただき、大変有意義な活動となりました。この活動について副院長の宮崎 崇先生、クリニックを通院中の患者さんよりコメントをいただきました。

MMWINの活用により、地域の中核病院とのデータの共有が可能となり診療の幅が広がり、特に透析患者さんやCKD患者さんの場合、用量調節の必要な薬剤が多く、副作用を疑った場合に他院の処方と問い合わせることなく確認できたり、副院長 宮崎 崇先生 他院の採血検査と比較してデータの推移を確認したりと、より細やかな病態把握に役立ちます。



副院長 宮崎 崇先生

当院では透析システムと手動連携の体制整えておりますが、今後更なる連携をとれるよう、院内のシステムもアップデートしていきたいと考えております。



院内待合室の様子

サンクリニックさんから「みやぎ医療福祉情報ネットワーク加入のご案内」などの資料をいただき、家族に相談したところ、近年災害が多いので加入を勧められ申し込みました。通院先からの案内なのでとても安心しています。



佐々木 喜代子様
(栗原市在住)

一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号
【事務局】
TEL : 022-395-6312 FAX : 022-395-6313
E-mail : office@mmwin.or.jp URL : http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】
TEL : 022-399-6880 E-mail : support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
「MMWIN」・「みんなのみやぎネット」は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN® 通信

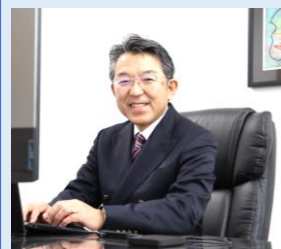
みんなのみやぎネット® NEWS

2024
9.27
vol. 78

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

東北大学病院のカルテ情報が共有されるようになりました！

この度、MMWIN内の医療機関でカルテ共有が推進されることを目指し、張替 秀郎 東北大学病院長の号令の下、2024年7月から東北大学病院の医師のカルテ記載（プログレスノート）、看護サマリ、退院サマリ、紹介状がMMWINで公開・共有が始まり、同意患者さんの臨床情報が閲覧できるようになりました。今回の大学病院のカルテ共有に対するお考えなど張替 病院長にお話を伺いました。



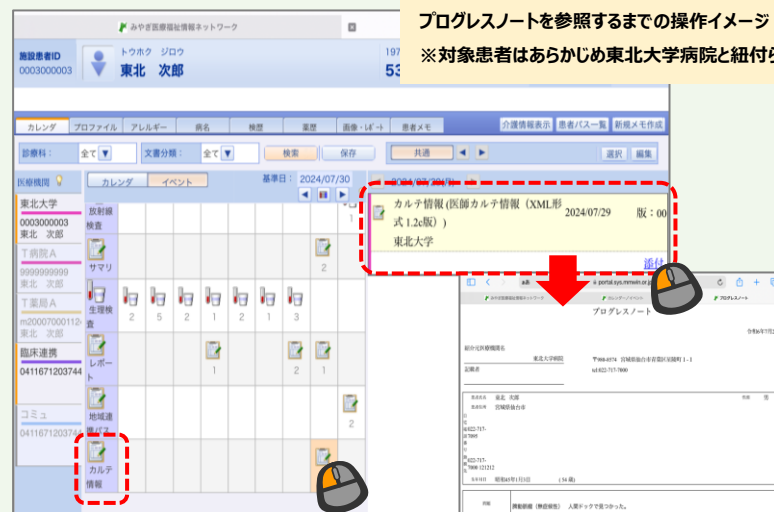
病院長 張替 秀郎 先生

MMWINにバックアップされているカルテを含めた医療情報が共有されるようになることで、以下のようなメリットが期待できると考えております。

1. 医療の効率化：病院間で患者さんの診療内容が確認できるため、紹介時作業が効率化され、スムーズな紹介・逆紹介が可能になる。
2. 医療安全の向上：病院間で診療・説明内容が把握できるため、一貫性がある医療が提供されるとともに、病状・診断に対する理解に齟齬が生じないようになる。

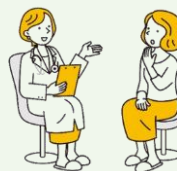
そこで、当院の医師が記載するカルテを含めた診療内容を、他の医療機関へ公開・共有することから始めることにしました。今後、現在共有できていないレポートなどの拡充も進めていければと考えております。

これらの取り組みの有効性を実感していただくことで、他の病院でも同様にカルテ情報の共有が行われるようになり、県内全体で医療の効率化が進むことを目指していければと考えます。また、多くの患者さんがMMWINに参加し、MMWINの利活用が大いに進むことも期待しております。



プログレスノートを参照するまでの操作イメージ

※対象患者はあらかじめ東北大学病院と紐付けられている必要があります



米国にはない日本の強み 「薬薬連携」のさらなる充実化へ

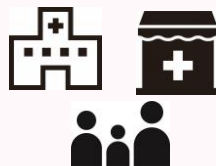
がん薬物療法は、入院化学療法から外来化学療法へシフトしている。その中で薬剤師は、がん化学療法や疼痛治療などの薬物療法が主体となる。がん化学療法における薬剤師の役割は、安全かつ効果的な治療を実施することにある。しかし、外来化学療法の一翼を担うべき保険薬局では、処方箋を持参した患者について、抗がん薬治療に関するレジメン、治療計画(使用薬剤、投与期間、休薬情報など)、検査値や支持療法薬使用の説明などの多くの情報が不足していたためがん治療の全容を把握することが難しく、病院と同じように適正な化学療法に寄与することは難しかった。そのため、病院薬剤師と保険薬局薬剤師との連携が必然的に重要となる。さらに、令和2年度診療報酬改定の概要(厚生労働省：2020年3月)では、保険薬局薬剤師は、がん化学療法のレジメンを把握した上で服薬指導を実施し、次回診察までの患者状況をテレフォンフォローアップで確認し、医療機関へ情報提供する取り組みが求められるなど、がん治療は病院内で完結せず、患者が自宅で安全に治療を継続できるよう、保険薬局での副作用管理、そして病院と保険薬局との薬学的管理に関する円滑な連携がさらに重要となってきた。

当院ではこれまでに「薬薬連携」の取り組みに対して、保険薬局薬剤師を対象としたがん治療に関する勉強会の開催や点滴抗がん薬治療患者へは点滴治療中に診療情報提供書(レジメン名、治療経過、副作用状況、薬学的介入内容や処方提案内容などの情報を記載したもの)を作成・交付し、情報共有を行なってきた。保険薬局薬剤師は患者から受け取った診療情報提供書を基に、治療の全容を把握しテレフォンフォローアップにて自宅での患者状況を聴取し副作用などの情報をトレーシングレポートで病院へフィードバックを行い、緊急性が高い症状であれば直接病院薬剤師へ電話する体制であった。しかし、経口抗がん薬について点滴抗がん薬とは異なり、医師の診察後に患者はそのまま保険薬局へ向かってしまうため診療情報提供書を交付することができず情報共有ができていなかった。経口抗がん薬は、副作用だけでなく服薬コンプライアンスの管理も治療継続の上で重要であり、連携を行う上でどのように情報を共有すべきか模索していた。



米国がんセンター薬剤師への
日本の薬薬連携紹介

その中で、経口抗がん薬治療患者の情報共有のヒントとなったきっかけが昨年に参加した米国のがんセンターへ研修であった。米国では日本のような「薬薬連携」といった文化がないことをご存知でしょうか？私は研修期間中にその事実を知り衝撃を受けた。米国では外来患者と病院スタッフをつなぐ電子媒体としてNavigating Careというシステムを導入されており、患者はモバイルタブレットやパソコンを通じて自らで治療に関する情報、検査結果の閲覧や来院予約、診療録にアクセスすることができ、さらに自宅での体調の変化や副作用をこのNavigating Careを通じて病院スタッフへ電子メッセージとして発信できる。電子メッセージを通じて医療スタッフから副作用に対する支援を受けたり、緊急性があれば医師に繋いで受診勧告を促したりするなどNavigating Careを通じて患者と医療スタッフとが相互に情報を共有していた。



みやぎ県南中核病院 薬剤部
主任 堀之内 藍 先生

日本ではNavigating Careのような病院と患者を繋げるツールはないが、相互の架け橋として保険薬局薬剤師の役割がとても重要であることを改めて感じた。そのためには経口抗がん薬治療においても保険薬局への情報共有、服薬指導の統一化がより一層重要な課題であると考えた。そこで注目したのが電子媒体であるMMWINの導入だった。紙媒体である診療情報提供書を患者に交付しなくても、点滴抗がん薬同様に治療に関する情報をMMWIN上へアップすることで簡便に情報提供ができ保険薬局薬剤師の患者介入の一助になると考えた。MMWIN導入にあたっては、まず経口抗がん薬を対象としたMMWIN加入の説明書の作成を行い、さらに経口抗がん薬の処方集中する当院の門前3つの保険薬局とMMWINにアップする情報の内容を吟味し、レジメン名、サイクル数、投与量、副作用の発現状況、検査値や薬剤師の処方提案や介入内容、保険薬局薬剤師への依頼事項などを共有する方針とした。



MMWIN導入に関する
門前薬局との話し合い

令和6年4月からMMWINの運用が開始となってまだ間もないが、経口抗がん薬患者の情報を点滴抗がん薬治療同様に共有が可能となり、保険薬局薬剤師からもテレフォンフォローアップ時に診療情報に簡便にアクセスでき自宅での患者状況の把握や副作用発現時に支持療法薬内服のアドバイスを行うなど患者介入の一助になっているとの声もいただいている。現在は、当院の門前に位置する薬局のみ重点的に取り組んでいるが今後は門前以外の保険薬局への連携拡大に繋げていきたい。

今秋開催 MMWIN活用セミナーのご案内

- | | | |
|------|----------------------|----------------|
| 第10回 | 透析連携のためのMMWIN活用Web講座 | 2024年 9月11日 終了 |
| 第1回 | みやぎ脳卒中地域連携バス会議 | 2024年 9月26日 開催 |
| 第4回 | 保険薬局のためのMMWIN活用Web講座 | 2024年10月16日 開催 |

